

2023年7月号

2023年8月31日発行

NPO 法人わっか 月次報告書 50



毎週 月・火曜日 15:00 ~ 17:00
水・木曜日 13:00 ~ 17:00
金曜日 16:00 ~ 20:00

子ども 169 名 おとな 23 名

平日わっか

毎週水～金요일に開いている場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで、ただ開いている場です。そんな場所に集う人たちと、ゆったりとした時間を過ごしています。



左上・屋根にとまった羽根をとろうとしている。
右上・石を金槌で砕いている。
下・土間はあまり子供たちがいないので、静かです。

最近のこと

夏休みになり、いままで来なかった子どもたちが来るようになりました。それでも、その集団のなかには、以前にここに来てくれていた子もいて、その子が「ひさしぶりー」と言いながら入ってきます。また、下校のときに挨拶だけはずっとしていた子もいて、そういうのの積み重ねで、子どもたちが来るようになったんだなあと思います。

保育園のときから知っている子が、高学年になって初めて寄ってくれるって、結構うれしいものですね。

第2、4日曜日 10:00 ~ 15:00

子ども 7名 おとな 2名

日ようわっか

第2、4日曜日のお昼に古民家を開放しています。お休みの日なので、ここに、くるのは小学校高学年までの親子連れが中心です。ときどき、遠くからふらっと寄ってくださる大人もいます。



なおえもんの日記

♪月に一度の楽しいサロン～ なおえもん

以前も書いたと思うが、月1回月曜日の10時～12時まで、『わかサロン』をやっている。7月までの参加者の合計は120名を超えており、平均を計算すると8.8名となった。それに加えてスタッフ5名で地域のおばあちゃんたちと何気ない2時間を過ごしているのだ。

4月に入ってから、スタッフでもあり、俳人の米澤さまに作詞を、ご近所さんの友人の岩脇さまに作曲いただき『サロンの歌』が誕生した。歌詞が書いてあるので、どうぞご覧ください↓

3	2	1	サロンの歌
まいばらいちの 今日も集まり 老いた皆の 山の桜が 月に一度の	冗談飛び交う 歳はとつても 老いた仲間が 楽しく遊ぶ	みんなので話そう 歳はとつても 若いものには そんな気持ちで	
楽しいサロン 楽しく過ごす 素敵な笑顔 笑っているよ 楽しいサロン	仲良し仲間 楽しい会話 まだまだ若い 心を合わせ わかかの時間	昔のことを 気持ちは若い まだまだ負けん するゲーム	作詞 米澤 一銭 作曲 岩脇 明美

歌詞を作られた米澤さまは『昨年12月よりわかサロンに来て、自分が感じたこと・楽しかったことを、ありのままに表現した。』とコメント。実は、サロンの歌の歌詞は1つだけではない。『するゲーム』の部分が『楽しく過ごす』になっていたり、『山の桜が笑っているよ』の部分が『紙のボールを投げ合う二人』になっていたりとその時その時で歌う部分を変えているのだ。歌詞を変えられるのは、『わかサロンだから出来ること』なんだと実感している。これからも毎月サロンの歌をみんなで歌っていきたいと思った。



2023年7月に頂いたご寄付

物品でのご寄付 **2**名（団体）

- ・野菜（Gさま）
- ・おかし（Tさま）

マンスリーサポーター **28**名

荒巻りか、大溪麻紀子、後藤基志、佐藤笑代、佐藤真紀、佐藤桃子、柴原隼、鈴木愛子、西村、廣部奈緒美、藤澤彰祐、前田諭、マコトヤ、南出吉祥、三輪恵美、吉田尚子、安田寿彦、大濱哲（敬称略）

都度ご寄付 **0**名

助成・補助団体、応援企業 **5**団体（2023年度）

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、タノシニア合同会社、マコトヤ、紙 eco（敬称略 2023.6.1 現在）

SNSもよかったら、覗いてみてください。日々の様子や、古民家を開ける日などを載せています。

Facebook



こどもと大人の居場所 わっか

Twitter



アカウント名 @NpoWacca

Instagram



アカウント名 @npo_wacca

編集後記

夏休みになり、はじめましての子がたくさん来ました。「暑すぎて公園であそべん」と子どもたちが教えてくれます。そうなんですよ、日中米原も35度を超えることもあり、近くの公園も遊べる気温ではなくなっています。だからか、13時から15時くらいまで古民家であそんで、それ以降、またみんなで公園に行く姿があります。そして、17時くらいの閉める前にもう一度戻ってきて体を冷やして帰っていきます。

いままでは夏休みは子どもたちは外で遊んでいたんですが、それができなくなってきました。どうやって、子どもたちの育ちに必要な遊びを確保するのか。公的な施設の一部を開放するというもの1つだと思います、また地域の公民館などを地域住民によって開けることも必要なのかもしれないです。そうやって、みんなで子どもの育ち、遊びについて考えていけるといいですね。（だいのすけ）